

なぜ?! 日本ボディビル・フィットネス連盟(JBBF)競技会なのか…

近年、ボディビル・フィットネスの注目度が上り、多くの世代の方々がトレーニングに親しんでいただいていることは、JBBF として喜ばしい限りです。日頃のトレーニング成果を発揮するため、ボディビル・フィットネスの競技会に参加する方々も増えています。

競技会出場を目指す選手から様々なお問い合わせをいただきますが、その中に JBBF 以外の団体（他団体）の競技会への参加についての質問があります。様々な他団体が実施している競技会について、何を基準に参加したら良いかをお話いたします。

アンチドーピング

禁止薬物の効果やその摂取方法を知らせる SNS 等によって、ドーピングが拡散し被害者が増加している現状が問題となっています。ドーピングは国によっては犯罪となり、また覚せい剤と同じように人生を終わらせる事にもつながります。

JBBF は JOC 及び JSPO に加盟し、ボディビル・フィットネスを競技スポーツとして捉えています。禁止薬物を使用することでの健康被害と、平等な競技会の実施を訴え続けています。

JBBF は世界アンチドーピング機構（WADA）が定めるアンチドーピング規程を世界共通のルールとして共有しています。アンチドーピングの活動は、ドーピング検査を行い、違反者に対してペナルティを科す為のものではない事をご理解ください。

ドーピング検査を実施する資格

ドーピング検査を行うためには、日本アンチドーピング機構（JADA）のメンバーとして競技団体独自のアンチドーピング規程を制定しなければなりません。選手登録を行う全ての方が検査の対象となるので、アンチドーピング教育講習会の受講が義務付けられています。ドーピングに対する知識もなく検査を受ける事は出来ません。そのために JBBF 登録選手は定期的にアンチドーピング教育講習会を受講しなければなりません。

他団体に於けるアンチドーピング活動

安易に禁止薬物を勧める団体、ドーピング検査を実施しない団体もあります。ドーピング検査には、実施のための資格が必要なため、検査が無意味となることもあります。アンチドーピングが必要と考える団体からは JBBF へ協力要請も来ており、そのため、講習会の募集要項や申込フォームに JBBF 以外方であっても受講出来ると明記してあります。

競技者へのお願い

ボディビル・フィットネス競技を行っている方、そしてこれから行う皆様へ…。舞台の華やかさや SNS 等の情報だけではなく、JBBF は競技スポーツとしての正しい活動や、長く続けている生涯スポーツとして競技会を行っています。多くの皆様にご理解いただければ幸いです。

2021年3月25日

公益社団法人 日本ボディビル・フィットネス連盟

専務理事・アンチドーピング委員会事務局長 青田正順